

※文字の大きさはMSゴシック /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、適宜文章中に挿入してください。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ずA3片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

No.93

<b>エントリー名：京都府京都市立楊梅幼稚園</b>													
<b>学校名：京都府京都市立楊梅幼稚園</b>													
<b>活動名：子どもの心が動く幼小接続 ～互いのあたりまえを越える～</b>													
<b>解決すべき課題：</b> 京都市立楊梅幼稚園と京都市立下京雅小学校は、令和2年度より、同敷地内での新園校舎での教育が始まり、これまで以上に幼小接続の取組を進めてきている。合同研究組織（YMO プロジェクト）を立ち上げ、両校園で目指す子ども像を共有し、接続期のカリキュラムや教育課程を編成した。取組の中で以下の課題が明らかとなり、引き続き取り組みを進めている。 1. 互いの教育についての理解を深めること 2. 9年間の子どもの育ちをつなぐこと 3. 幼小接続による主体的・対話的で深い学びの実現													
<b>目標・方針：</b> 1. 「見えにくい」と言われる幼児教育について、小学校教員の理解を深める（幼児教育の特徴である遊びからの学び、環境による教育、教師の援助について、幼児理解について理解を深める） 2. 育てたい資質・能力「探究・ふれあい・誇り」を視点に9年間の子どもの育ちをつなぐ（子どもの9年間の育ちについてエピソード記述や抽出児の育ちから探る） 3. 互いの教育のよさを生かし、「心が動く」保育・授業を創造する（子どもの姿を捉えることから始まる教育、心を動かし夢中になって遊ぶ、学ぶ授業を創造する）													
<b>活動内容：</b> 1. 1週間、保育を公開し、自由な時間に参観する「ミシルウィーク」 幼児の「探究・ふれあい・誇り」の姿、幼児期の遊びの中の学び、環境構成と教師の援助について理解を深めることを目指す。 2. 子ども理解を深め、9年間の発達を捉える「エピソードシート」（表1） 幼児教育で大事にしている一人一人の内面を見取り幼児理解を深めるために行っているエピソード研修を小学校教員に伝えやすいように要点をまとめたシートを作成する。 3. 同敷地内だからこそできる「交流授業」（写真1） 相手意識をもつことでより意欲的になったり、一緒に遊ぶ（学習する）ことで、子どもたちの経験が深まったり広がったりなど、交流するからこそ育まれる互いの育ちを明確にして進める。 4. 事前、事後の協議を大事にした「研究保育」「研究授業」 幼児教育で大事にしている理念（教師との信頼関係を基盤として安心感をもち、自ら選んだ好きな遊びを、友達と同じめあてに向かって心を動かして遊ぶ中で、自己発揮していく）を、小学校の授業に、環境の工夫、活動の工夫、援助の工夫のアプローチから取り入れ、子どもが心を動かし夢中になる「主体的・対話的・深い学び」を目指す。 以下、取組の一例を示す。													
<b>（表1）エピソードシート &lt;楊梅幼稚園3・4・5歳児&gt;</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学期</th> <th>月</th> <th>子どもの姿</th> <th>環境構成</th> <th>教師の援助</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I</td> <td>3歳児 4月 5月</td> <td>・教師と一緒に遊ぶことを喜び、認められて嬉しかったり、共感してもらったり、親しみを感じたり、安心したりする。 【ふれあい・誇り】 き喜んで、驚いたりする。【探究】</td> <td>・安心していつでもやりたい時に見たり、触ったりできるように、すぐ目の前や子どもの視線や視線に教材を配置する。【探究・ふれあい】</td> <td>・子どもが思いのままに遊べるよう見守り、思いを見</td> </tr> </tbody> </table>		学期	月	子どもの姿	環境構成	教師の援助	I	3歳児 4月 5月	・教師と一緒に遊ぶことを喜び、認められて嬉しかったり、共感してもらったり、親しみを感じたり、安心したりする。 【ふれあい・誇り】 き喜んで、驚いたりする。【探究】	・安心していつでもやりたい時に見たり、触ったりできるように、すぐ目の前や子どもの視線や視線に教材を配置する。【探究・ふれあい】	・子どもが思いのままに遊べるよう見守り、思いを見		
学期	月	子どもの姿	環境構成	教師の援助									
I	3歳児 4月 5月	・教師と一緒に遊ぶことを喜び、認められて嬉しかったり、共感してもらったり、親しみを感じたり、安心したりする。 【ふれあい・誇り】 き喜んで、驚いたりする。【探究】	・安心していつでもやりたい時に見たり、触ったりできるように、すぐ目の前や子どもの視線や視線に教材を配置する。【探究・ふれあい】	・子どもが思いのままに遊べるよう見守り、思いを見									
<b>&lt;下京雅小学校 第2学年&gt;</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学期</th> <th>月</th> <th>環境</th> <th>活動</th> <th>働きかけ</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I</td> <td>4月 5月 6月 7月</td> <td>○野菜の育て方や生き物の育て方について調べるための本を用意することで、児童の主体的な調べ学習・栽培・飼育活動につながった。それによって「トマト博士」「カブトムシ博士」になった児童は、自信をもって発言していた。【探究・誇り】</td> <td>○自分の好きな夏野菜を自分の植木鉢で育てるといふ活動にすることで、「お父さんのおつまみになるように枝豆を育てたい」「トマトを育てると、こたわりをもった野菜を選ぶ姿が見られ、意欲的に栽培活動に取</td> <td>○「どうしたらお互いに飼っている生き物が見られるかな？」と投げかけることで、『小さな友だち』博物館を作ったらしい！と、児童の心に火が付き、「看板を作ろう」「案内地図を作ろう」と、どんな博物館にするか、みんなで考えて実行す</td> <td>生活科「くんぐんそだておいしいやさい」「小さな友だち」</td> </tr> </tbody> </table>		学期	月	環境	活動	働きかけ	備考	I	4月 5月 6月 7月	○野菜の育て方や生き物の育て方について調べるための本を用意することで、児童の主体的な調べ学習・栽培・飼育活動につながった。それによって「トマト博士」「カブトムシ博士」になった児童は、自信をもって発言していた。【探究・誇り】	○自分の好きな夏野菜を自分の植木鉢で育てるといふ活動にすることで、「お父さんのおつまみになるように枝豆を育てたい」「トマトを育てると、こたわりをもった野菜を選ぶ姿が見られ、意欲的に栽培活動に取	○「どうしたらお互いに飼っている生き物が見られるかな？」と投げかけることで、『小さな友だち』博物館を作ったらしい！と、児童の心に火が付き、「看板を作ろう」「案内地図を作ろう」と、どんな博物館にするか、みんなで考えて実行す	生活科「くんぐんそだておいしいやさい」「小さな友だち」
学期	月	環境	活動	働きかけ	備考								
I	4月 5月 6月 7月	○野菜の育て方や生き物の育て方について調べるための本を用意することで、児童の主体的な調べ学習・栽培・飼育活動につながった。それによって「トマト博士」「カブトムシ博士」になった児童は、自信をもって発言していた。【探究・誇り】	○自分の好きな夏野菜を自分の植木鉢で育てるといふ活動にすることで、「お父さんのおつまみになるように枝豆を育てたい」「トマトを育てると、こたわりをもった野菜を選ぶ姿が見られ、意欲的に栽培活動に取	○「どうしたらお互いに飼っている生き物が見られるかな？」と投げかけることで、『小さな友だち』博物館を作ったらしい！と、児童の心に火が付き、「看板を作ろう」「案内地図を作ろう」と、どんな博物館にするか、みんなで考えて実行す	生活科「くんぐんそだておいしいやさい」「小さな友だち」								

（写真1 1年生とマット遊び）



<幼稚園のあたりまえ>

- ・学習の先取りにならない交流にしたい
- ・子ども同士が継続してかかわりたい
- ・幼児期の遊びを通した学びを小学校の授業に生かしたい
- ・小学校の授業で幼児教育の環境構成の視点を生かしたい
- ・小学校の先生が大事にしているめあてについて共有する

<あたりまえを超えた取組>

- ・交流では、活動は一緒にするが、幼児と小学生とでねらいの違いをしっかりとつ
- ・イメージを大事にして子どもの意欲を引き出す（なりきることで動きがかわる）
- ・子どもの動きに着目することは心の動きを見取ることにつながる
- ・授業でも保育でも子どもの様子を見ながら環境の再構成をしていくことが重要
- ・保育でおこなっている振り返りについて、時間や持ち方など、検討が必要
- ・子どもの姿から始まる保育指導案のような学習指導案を提案したい

**取組の過程：**

1. 時間を工夫して交流する（写真2、3）  
 休み時間の活用や手紙や映像などの活用、行事での交流など、短い時間でもできる交流を工夫する。同敷地内だからこそ、生まれる子ども同士の自然な日々のかかわりの積み重ねを大事にする。
2. みんなで子どもを育てる教職員の関係づくり（写真4）  
 YMOでの研究や、研究主任を核として、互いの教育のよさ、違いなど伝えあうことで、幼小接続がもたらす教育効果を教職員自身が実感し、互いを認め合う関係を構築した。子どもたち同士のかかわりや、互いの環境へのかかわりなど、教職員みんなで温かく見守る。



（写真2 小学生から届い （写真3 幼児が行っている （写真4 校庭も自分たちの  
たビデオと一緒に体操） 体操を5年生も一緒に楽しむ） 身近な環境になる）

**活動の成果：**

1. 幼小接続による教育の質の向上
  - ・小学校が幼児にとっても、身近な環境となり、興味や関心が広がる。
  - ・小学校教育に見通しをもち、カリキュラムマネジメントができる。
  - ・小学校教員に幼児教育のどのようなことを核として発信するのかを追求することで、丁寧な環境構成や自身の援助を振り返ることにつながった。
  - ・小学校教員の発問やねらいに対する意図など、保育の援助にいかそうとする。
2. 保護者のアンケートより保護者も子どもたちの育ちから幼小接続の大事さを感じている。
3. 研究発表会の参加者から、エピソードシートや交流の様子など、参考になったと高評価。